

非常食の「白い小箱」
455箱を市、受け取る

高田学苑が寄付

松阪市は27日午後1時半から、市と連携・協力協定を結んでいる津市の高田学苑から、非常用備蓄食品箱詰めセット「白い小箱」455箱を受け取った。市の公立幼稚園に配布する予定。

白い小箱は、一般社団法人日本非常食推進機構（四日市市）が進める一人分の水やパン、アルファ米などが入った災害用非常食セット。同学苑では災害に備えて、中学、高校、短大の全生徒が入学時に購入することとしている。

在学中に使用しなかったものは、卒業後、一部を寄付するなどして活用している。今回、市と連携・協定を結んでいることから、初めて市に寄付した。

この日は、高田高校の生徒会役員や安全推進委



災害用備蓄食品を寄付する高田高校の生徒ら＝市役所で

員会委員など生徒5人と教員、同機構の古谷賢治代表理事（50）が訪れた。竹上市長は「数ある中から松阪市を選んでくれてありがとう。災害時に必要な食料や水を子供たちに支給できることはありがたい。小さな親切が

世の中のためになっ
る」などと話し、生徒ら
は「松阪市に届けること
ができて光栄に思う」「支
援活動に関われてよかつ
た」「社会がいろんな人

に支えられるいい機会に
なった」などとそれぞれ
話した。
古谷代表理事は「生徒
さんたちが防災の知識を
よく勉強してくれてあり
がたい」と笑顔だった。